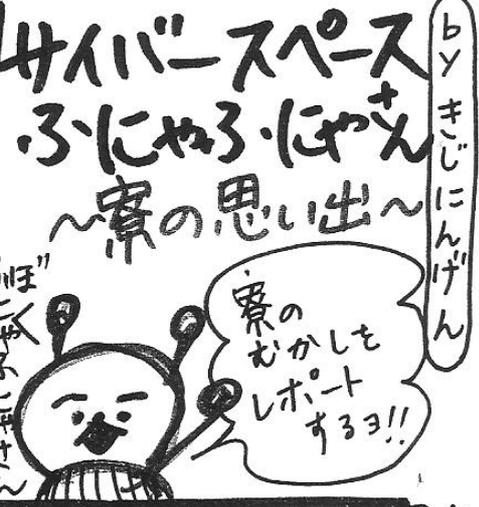


執筆100年ですから



by きじにんげん



※注1・寮の入リロにある



※注2・受付によくいる謎の人物



寮内放送は面白いものが

※注3・庭の中に建てられた別棟。

どんだけ腹へってんねん

今日一食めだー!!

超うめー

ガツ

ガツ

おさぼる人々...

（注3）

「そーういえば、プレハブに酒あつたよな？」

フリー本場に庭に大きなプレハブ

ちやんと酒も...

庭で素振りする人にもうくう

ウワー!

野武士か!?

下駄

何か用?

上半身裸!!

ちよとあのビールをもらいたいんだけど...

いいよ?

腹減り?

部屋にはビール缶の山が!!

消費期限切れのを大量にもらったらしい。さすがである

全部ビール

何本かもらよ〜

めんどくさい

肝臓のやわい

ちなみに作者はのんで体調を壊しました

涙も捨て〜

情も捨て〜

ガン

ガン

お前、何食べたことある?

しゃべる人

ウイ...

のむ人

勉強する人

文句いいたきたん

生活の必需品のコタツ

来客や寮外生(注4)でにぎやかな日々でしたよ

おわり。

やつが来たのは確か去年の梅雨。来ていきなりトイレの壁を壊し始めた。寮生数人がそれを止め、問いただした。「何やってんだよ！何でこんな事すんだよ！」するとやつも怒り出した「〇×●fuckin'◎○△ペラペーラ！！」。とにかく出て行けと伝えると、いなくなった。数十分後、色んなものをどこからか拾ってきて寮の裏の駐車場に自分の寝床を作っていた。「なんやねんこいつ！」その場にいたカルメンを除く全員がそう思ったであろう。関西弁ではなかったかもしれないが。

僕は英語が話せたので、その後一人で話に行ってみた。話している途中、雨が降ってきた。とりあえず場所を食堂に移した。どうやらスペインから来たバックパッカー（旅行者）らしい。3年程前に吉田寮に泊まったことがあって、その時とても吉田寮が好きになっただけ。でも今回来てみたら、あまりのトイレの臭さにショックを受けて（いや、笑い事じゃなくて、昔に比べて寮生が寮の手入れをしなくなったって事）何とかしないと！と思い、トイレの壁を抜いて通気を良くしようとした、との事だった。当時は一ヶ月ぐらい小便器が壊れていて、その時は確かに臭かった。

また、壁のつたをはがさない！！とも、寮の木が弱っている！！とも言っていた。僕はドキッとした。確かに色んなところで壁にはつたが這っていたし、木も全く手入れされていなかった。寮内には至る所にゴミが溜まっていて、蛍光灯も切れっぱなし。寮の雰囲気は確かに悪くなっていた。

しかしおかしい。だって他の人が住んでいる家の雰囲気が悪くなった事を嘆いたとしても、何の相談も無くいきなり人んちのトイレの壁を壊してもいいのか！？話せよ。ちゃんと言えよ。英語分かる人ぐらいいるから。お前の言ってることは間違っただけだから。そう伝えた。

やつは納得したようだった。しかしやつは明日出て行くといっているのに出て行かなかったり、考えている事（トイレ壊した理由など）を文章にするといったのにしてこなかったり、色々約束を守らなかった。結局やつは2、3週間ほど居座り続け、いつの間にかインドに旅立って行った。

あいつは基本的にむっちゃ自己中心的でひどいやつ。でもたまに正しいことも言う。それに気付かされることもある。変なやつでも、とりあえず話して、何を考えているのかを聞くのは中々に面白いことだと思う。いろんな人が来て、いろんな人が交差する吉田寮の楽しみ方の一つだと思う。

寮に住んでいるからといって、寮生が必ずしも正しいとはいえない。←ここ大事

かといって、誰が何をしてもいい場所ではない。

吉田寮は様々な人と人の関係性と、他人に対するリスペクト（相手の話を聞こうとし、相手を理解しようとする事）の上に絶妙なバランスで成り立っている空間である。

吉田寮入寮パンフ用文章 文責：しろー（京都精華大学）

初めまして。京都精華大学のしろーです。

京都での住居を決めかねているそのきみ！いますぐ吉田寮にはいったほうがいい！

と書きたくなるぐらい天国に一番近い場所、吉田寮とは一体何なのか？寮外生（寮生以外の事を寮外生と呼ぶみたい）の立場から簡単に書きたいとおもう。

僕が吉田寮に関わったのは数年前、まだうら若き予備校生だった時代だ。世の中なんもおもしろい事ないなー、と思って勉強もサッパリ手につかず、ぶらぶらしていたとき偶然目の前に吉田寮は現れた！

なんだここは！？まず建物がどう見ても廃墟！
コタツは廊下にあるし、ゲームを24時間している奴や、麻雀ばかりしている奴がいる！
かと思えば、普通に整頓された部屋でFラン私大生からみれば意味不明な勉強をしている！
何だここは？ カオス過ぎる！

当時まだ何も知らなかった僕はいつべんにその魅力にとりつかれた。当然のように寮祭に参加し、ヒッチハイクレースや鴨川レースを体験し、頻繁に行われる酒盛り（当時すでに浪人しまくっていた）・イベントに行きまくった
世の中にこんな楽しい事をやっている人たち、場所があるのか？
とにかく楽しい！というのが入り口だった。

しかし本当の吉田のすごさを知ったのはそのあとだ。

まず敬語がない。いや使っている人はいるのだが別に無理して使わなくてよい。
留学生も多いし、この閉鎖的な制度のあほらしさをみんな知っているのかもしれない。
最近の寮生・寮外生の感じは知らないが、僕が通っていた当時は敬語を使うと逆に怒られたりしたもんだ。
これがないと本当にいいことばかり。まず、むかつく年上、バカな先輩に

ストレートに「バカ」と言える。

その上、年下が僕の顔色を伺って本音を言わないということが少なくなる。つまり、議論がめちゃくちゃしやすい。というか、敬語が存在する議論なんて議論じゃないだろ。

と思うようになるほど、この感覚は新しかった。

うちの大学はくだらない体育会系上下社会なので、同年代以外のつながりが希薄で、

本当に面白くない。先輩が来たら後輩が急いでコップを用意して、酒をついでいる姿、

つながっているバカな先輩の顔を見ると、あほくさくて笑ってしまう。

吉田だったら自分でつぐか、まってもきっと誰もついでしてくれない。

飲みたくない奴はのまなくていいし。そう、とにかく何かを押し付けられる場面が少ない。

(のちに無理やりつぐ行為をアルハラと呼ぶという事を知ったが、上下関係がなければそんなもん起こらない。うちの大学ではもちろん日常茶飯事で、それを良い伝統だと信じてる奴までいる。急性アル中で勝手に死ぬのは自由だが、殺したらどうするつもりだ。)

のちに精華大学にはいってわかったが、大学生はみんなこんなのではなく、つまらない中学校とかと同じで上下関係やうっとおしいことばかりだ。

京大でも、ふつうのサークルや学部の中ではそうなのかもしれない。

一生そういう関係で生きていたら、多分ものも自由に言えないし、誰かと話して得る広い視野を持つことはないだろう。

あとは、制度/運営。細かいことは寮外なんでわからないが、吉田では大抵のことを寮生自身で決めている。

大学側はいやがってるみたいだが、これが結構すごい。

新入寮生を選ぶのも寮生だし、寮の細かい運営のほとんどに細かい委員会を自分たちで作って対応している。

老朽化対策とか、清掃、新聞や文化事業をするやつらまでいるみたいだ。

「自治」なんて言葉が最近の若者に通じるかしらないが(僕も知らなかった)、吉田ではそれが当たり前。やさしく言うと「自分の事は自分で決める。自分たちのことは自分たちで決める」ってことだ。こんなの当然だろって今では思うが、今までの人生、そんな風に決められたことなんて一度もなかった。敬語の件もそうだが、この国では権力にはおもねるのが基本なので、親や先生といったボスがいないと集団行動も取らせてもらえない。しかし吉田では違う。限定的ではあるけど、そこでは話し合って何かを決めるという、日本では本当に有数の民主主義の実践の場所があるはずだ。

面倒くさい事を書いたがとにかく寮に入ったら何らかの役割があるかもよって事だ。会議はしんどい、という人もいるかもしれないが。これもものちのち役に立つはずだ。とにかく自分の事を決めるという体験に興味がある人間はいますぐ入って自治をやってみた方が良い！

僕みたいな寮外生＝無関係者が何でこんな文章を書いているのか。というかなぜそもそも京大生の寮に無関係な人間が出入りしているのか？

この事にも色々理由があるみたいだ。共同生活のかわりに、寮費はクソ安い。これも諸先輩方が頑張ったおかげなのだが、寮は京大の厚生施設だから安いという理由もある。京都大学は学費も普通に高くなってきてるが国からの交付金もけっこうもらっている国立大学だ。その厚生施設なんだから国民のものだし、それ以外の税金を払っている人間達の厚生施設でもある。大学自体、人類みんなのものだって考えもある。

だから、吉田寮は寮生以外に開かれているのだ。と勝手に理解している（間違っていたらごめんなさい）

だから、クソ安い寮費だけど、こんだけ人の役に立っているぜ！という事を、将来とかじゃなく今すぐ見せられれば、吉田寮はもっと愛され、必要とされる。もちろん、住んでいる寮生の生活が一番だが、余裕があれば開いていく。っていう日本で唯一のスタンスをとっている吉田寮がすごいし、好きだ。ここでさまざまな大学の学生や、社会人とあってきたが、目の飛び出るような話ばかりで、本当にいろんな事を知った。タダの京大生や、ウチみたいな私大の学生は絶対に知らないようなやばい話をいっぱい聞いた。そういった話は大学の授業より絶対に面白いはずだ。こんな寮はもうここしかない。ふつうの勉強が好きで好きでたまらないという性癖の人以外は、ぜひとも今すぐ吉田寮に入って交流を繰り広げ、見識を広げた方が良い！

「タダの学生」って話がでたからついでに言うと、吉田寮にはさまざまな仮設資材（工事現場用の資材）が置いてある。そしてでかい食堂（今は食堂としては機能してない）があり、その中でその資材を使ってみんなで芝居をやったり、ライブをしたりしている。工事現場の資材はそういう時大活躍するのだが、ではライブをする前に工事現場の人がやってきて作業するかということそんなことはもちろんない。やっているのはもちろん寮生や寮外生たちだ。僕もここで工具の使い方、倒れない建物の建て方とかを京大生から教えてもらった。文学部とか、理学部の人間が関係なく作業しているのは何か笑える光景だし、そういう時に理系の知識がでて「おっ」と

思うことがあったり、逆に秀才っぽい奴がまったくダメだったりする。

「頭よりもなんでもいいから手をつかえ」と作家の開高健が言っていたが、脳みそがこんがらがった時に単管パイプを触っていると何か思いついたりして事もある。

一般的に「エリート」と言われる京大生が、現場系の仕事を覚えるっていうのは何かおもしろい。専門バカってのが深刻で、何かの専門家が発言すると新興宗教みたいにみんな信じてるけど、そういう奴はたいてい他の分野はからっきしで、きっとギリシャやアラビアの学者は空で笑っているだろう。学問の垣根なんて曖昧で、線を引いているけど無理がある。古代の学者はその点偉大で、何でもできて当たり前だし、芸術だってできないといけなかったらしい。吉田では、そういった作業もそうだし、人が多いことで各種オイシイ(?)バイトも回ってきて、広く社会を知れる。研究室では知ることのない様々な情報が直接体験できて、文でも理でも、よりよい研究者になれることうけおいだ！保証はしないが…。

ある知識がまったく関係ない他の何かに役立つ事ってよくあると思う。経験は多い方が良い。特に若い回生のうちは、できるだけ手を広げた方が良い。そういった意味で、新入生はとくに吉田に入った方が、あとあと同級生に大きな差がつけられていい！

最後に

新入生もそうじゃない人も、外見に惑わされずに、とりあえず吉田の中に入れてみてくれ、受付周辺にいる誰かに話しかけてみれば、寮の事を教えてくれるはずだ。

僕は寮と寮生・寮外生に人生を変えられたと思っている。だから、寮を目の前にして、入る資格がありながらそれをスルーするなんてとてもお進めできない。大学生活は長いんだしほんの少しぐらい、寮生の体験をしてみるだけでもいい。とにかく、ちょっと人と違う体験をしたいなっと思っている人は今すぐ入寮申し込みをするんだ。きっとたくさんの素晴らしい奴、素晴らしくない奴に出会えるから。

これからの時代、いかに京大生といえどイケイケの研究者でもなけりゃだんだん厳しくなってくる。そういった時、ゴキブリ並みの生存能力を発揮するのは寮を体験している奴に違いない。直接的に助けてくれる奴も知り合えるかも知れないし、寮にいりゃ世の中いろんな事して生きていけるって事がわかると思う。それがわかったときの感動と安堵感、刺激は他に変わりたいものだし、人生にきっと役に立つ。

さあ、迷ったら入寮だ！それからライブや演劇や変なイベントが起こしたって人がいたら、僕は食堂とかをうろうろしているから捕まえてくれ！じゃあまた春、吉田で会おう！

寮に11年住んだ!!—某氏小史

20世紀の残り者

『私は、寮に11年住みました。』

という、「ほらみる、寮なんかに入るから、大学に長いこと行くことになるんだ。寮なんてやめとけ。」という話をされるかもしれませんが、しかし、私は、学部は4年、修士課程は2年と、少なくとも修士までは順調に卒業できました(博士課程は、たいへんなのです(>_<))(注1)。

私の思ったこと、したことをまとめてみました。今後入寮するかもしれない読者の参考になれば幸いです。

■ 0年目(20世紀後半)

父親が、『大学の寮の友達はいまだに何人もやり取りがあるが、学部の友達は、数えられるほどしかない。』と話していました。寮って楽しいんだろうなと思いました。

■ 1年目(学部1回生)(1999年)

入学試験の後に、吉田寮を見に行きました。「え？こんなところに住めるの？なんかへんな臭いがするし…(注1)。」と思いました。「吉田寮は、村的な感じでみんなとの交流があるけど、熊野寮は、個々人が独立している感じかな。」と、1年先に入学・入寮したM氏の案内を聞き、吉田寮への興味をかきたてられました。

入試後、暇だったので入寮案内を繰

り返し読みました。おもしろそうな場所だと思わせる紹介もあったけれど、どう解釈したらいいのかよくわからない文章もありました。紹介文を読む限り、寮は環境が悪そうなので、勉強ができるか、真剣に悩みました。

仮に、寮があまりに退廃的でどうしても向かなかったら、それから下宿とかを探そう、と考えて、さしあたって、吉田寮に入寮することにしました。この際に考慮したポイントは2つです。

- 進学したかったので、固定費(衣食住など)を減らしたい。
- 前述の親のセリフ。

入寮しようと思ったのはよいですが、やはり、銀杏並木を歩くのはこわかったです。ここで、ヘルメットとか棒とか持った人が出てきて、突然、誰何・詰問されるのかな？と。でも、そんなことは杞憂でした。

入学式の前々日くらいに大部屋に仮入寮すると、既に人が大勢いて寝る場所がありませんでした。困っていると、寮生が敷布団を1/3ずつ除けてくれました。そこで、そこに敷布団を2/3分だけ敷いて寝ました。寮生は優しいな(注3)と思いました。以後この印象は、変わっていません。連日、早朝から早朝まで、薄い壁1枚隔てた向こうで、当時流行していた Dance Dance Revolution のゲーム音楽と、そのステ

ップが聞こえていましたが、なぜか眠ることができました。幸運にも、私は、退寮した人の部屋に割り振られていたので、そのような環境(注 4)からは3週間で免れることができました。

さて、寮に入ると、何らかの自治活動に関わることになっています。私は、庶務部集金係となりました。結局、ずっとその仕事をしました。

予想外にも、勉強に関する苦労はありませんでした。同学部の4回生の寮生のN氏に単位のとり方のコツを聞き、科目・教員の選択の参考にしました。さらに、文化部室という共用の部屋に試験の過去問題が大量にファイル(注 5)されていました。それを利用し、1年目は54単位を得ました。(注 6)。

寮では、各種イベントも多いです。初めての寮祭(注 7)では、焼き鳥屋(注 8)とカレー屋(注 9)をしました。寮のイベント以外では、夏に、寮生とともに自転車で琵琶湖までいき、南湖を1周したり、ドイツ人の寮生たちと溪流に行って泳ぎ岩の上で野宿したりしました。日常的には、たまり部屋(S11)(注 10)で呑んだり、麻雀部屋でマーじゃんしたりしました。

■ 2年目(学部2回生)(2000年)

1年目よく勉強したので、ひまでした。なので、先述のN氏に薦められた学

部の専門科目をいくつかとってみました。

研究については、もともと、遺伝子などの室内実験に興味を持っていました。しかし、このころ、寮生のI氏にそのかされて、キノコ採取をするサークルに入り、野外の現象のおもしろさに目をむけることになりました。

また、研究者志望の寮生のK氏に薦められて、研究者になれなかった場合に備えて教職科目をとることにしました。物理や化学などの教職に必要な理系の科目を取るにあたって、ここでも工学部の寮生のO氏に話を聞いて科目・教員の選択の参考にしました。

この頃、現在まで引き続いたまり部屋(C14)が開設されました。当時、毎日、朝も昼も夜も、モーニング娘。のDVDがかかっていました。発泡酒を呑みながらずっと、DVDを見ているこの人たちの将来は、大丈夫だろうか?と思っていました。でも、そのうちの一人は、京大の先生になりました。びっくりです。その後、次から次へとマンガなどが入荷されました。一人暮らしでは絶対に触れなかったであろう日本文化の一側面に触れることができました。

食事についても心配はありません。吉田寮生であれば熊野寮の食堂が利用できます。熊野寮の食堂は、安くて

(吉田寮生は昼 290 円、夕 420 円(当時))
大量の野菜が食べられたので、当時、頻
繁に利用しました。

夏休みには暇だったので野宿をし
ながら寮生と自転車で3泊4日の福井
旅行をしました。

■ 3年目(学部3回生)(2001年)

庶務部をまとめる係である庶務部
長をしました。

先述の I 氏に薦められて、野外実習
に参加しました。そして、野外調査を
おこなうフィールド系の研究が面白
いと思いました。4 回生の研究室は、フ
ィールド系の分野を選択しました。

■ 4年目(学部4回生)(2002年)

集金係をまとめる係をしました。多
額のお金を取り扱って緊張しました。

寮生 4 人と台湾に卒業旅行に行き
ました。

■ 5-6年目(修士1-2回生)(2003-4年)

大学院の研究が、そこそこ忙しかっ
たです。しかし、頻度は少ないとはい
え、同時期に入寮した寮生とマーシャ
ンしたり、日本海に釣りに行ったりし
ました。

■ 7年目(博士1回生)(2005年)

同時期に入寮した寮生の大半が卒
業などしていなくなったので、勉学に
打ち込むことになりました。以後、た
まり部屋の寮生と付き合うことが多

くなりました。

■ 8年目(博士2回生)(2006年)

虫垂炎にかかって2週間入院しまし
た。寮生が病院まで送ってくれました。
毎日、寮生の誰かが見舞いに来てくれ
ました。寮の事務員さんが、洗濯物な
どを取りに来て洗濯してくれました
(注 11)。退院後は、数日間おかげを作っ
てくれました。大感謝です。一人暮ら
しでなくて良かったと思いました。

■ 9-10年目(博士3回生)(2007-8年)

寮と研究室との往復だったので、特
筆すべきことはありません。

寮で培ったコンピュータに関する技
術を活かして某所でアルバイトをし
て生活費としました。正規の終了年限
を越えると奨学金の貸与がなくなる
ので、低廉な金額で住むことができる
寮のありがたみが身に染みしました。

■ 11年目(博士3回生)(2009年)

就職が決まりました。長年お世話に
なった寮に恩返しがしたくなって、土
木作業(別紙参照)の手伝いや入寮募集
パンフ(今読んでるこれ!!)作成をして
います。

これまでの経験を踏まえ、寮で生活
する際のポイントをまとめてみます。

○ 自分を律すること

○ 勉強している人(とくに先輩)をみ
つけて、単位/試験情報を聞くこと

次に、寮に入るメリットを挙げます。

◎ 経済面

多方面からたいへん助かりました。家賃は低廉です。きっと、寮なしでは、ここまで進学できなかったことでしょう。さらに、テレビ、冷蔵庫などの家財道具も買わずに済みました。また、高価な教科書や書籍をもらったり、マンガを借りたりすることができました。

◎ 勉強面

自分の専門を深めるだけでなく、他の学部の人のお話も聞くことができた。たいへん勉強になりました。

◎ 人間面

父親に聞いた通り、学部の友人よりも寮の友人の方が多くでき、そしていろいろ深い話ことができました。今なら、メールや電話といった連絡手段があるので、いつでも連絡を取ることができます。この他分野にわたるネットワークを、今後私がどのように活かすことができるかがたのしみです。

また、多種多様な人を見られて人間の幅が広がりました。

書いてみて気がついたのですが、やはり、1,2 回生の寮の思い出が多いですね。大学の学部の思い出の大半は、寮の思い出です。そして、その思い出は、今でも昨日のように鮮明です。

上述の経験談のうちどれか一つでも気になれば、寮に見学に来てみてく

ださい。もしかすると、だれかさんのように、思いのほか、長いこといることになるかもしれませんよ(*^-^*)。

【脚注】

- 注 1) だからといって、留年が唾棄すべきものであるというつもりは、まったくありません。むしろ、そのような人こそ、話題や経験が豊富でおもしろいものです。
- 注 2) よく誤解されるのですが、寮に特有のにおいは木造の床への油引きの匂いです。酒やごみの臭いもすることもありますが、頻度は少ないです。
- 注 3) うたた寝したときに、布団をかけてくれそうだから、入寮した、と話す人もいました。
- 注 4) しかし、そのような環境が気に入って、大部屋に 1 年住んでしまうつわものもいます。
- 注 5) 当時、過去問を入手するにはかなり苦労が必要でした。
- 注 6) 約 126 単位で卒業できるので、そこそこ良好です。
- 注 7) 吉田寮では、5 月末頃に寮祭がおこなわれます。
- 注 8) 人民酒場とは、大学構内にテントを出し、ほぼ原価で酒や料理を提供し、呑むという寮祭企画です。
- 注 9) バラバーラとは、寮食堂の食堂機能を復活させる寮祭企画です。
- 注 10) たまり部屋とは、部屋住人が合意の上で、部屋住人以外の方が自由に部屋に来てよい部屋です。現在もこのたまり部屋には、頻繁に元寮生が訪れます。
- 注 11) 当たり前ですが、本来の業務とはまったく関係ありません。

やはりきみは何実に入るのが よろひかるう

こうなったら何が何でも

吉田寮を大規模補修してやる実行委員会代表

萩原不避歩

私は、吉田寮が好きだし、その魂の容れ物たるこの建築物もこよなく愛している。君は、この建物でもって、100年前の人間と繋がる。私はそんな奇跡がこれからも続くべきだと考えている。その思いは、独りよがりか。

これ書いてる今現在で、吉田寮開設まで 1299 日。吉田寮は、2013 年 9 月 13 日をもって、とうとう開設 100 周年を迎える。遠い 2015 年を夢見て、汎用人型決戦兵器と惣流さんにめろめろだった中学生時代を考えると、随分生きた。

昨年 9 月、「おめでとう！吉田寮ほぼ 100 周年祭」が開催された。何故「ほぼ」なのかと言えば、その時点で 97 年目だからである。寮に居る者と、かつてこの寮に居た者と、初めて寮に触れる者と、それらの垣塙と化し、約二週間の祭りは完遂された。その祭りの発起人となったのは、「こうなったら何が何でも吉田寮を大規模補修してやる実行委員会」である。

一昨年 10 月 30 日、天啓を受け、私は「こうなったら何が何でも吉田寮を大規模補修してやる実行委員会準備会」を立ち上げた。当初定めた最低人員数が確保されたため、即日、準備会は解散、本会の結成と相成った。

「何実(なにじつ)」と呼ばれるその団体は、この吉田寮の建物を補修して、後に残すために、もちろん、今この時、私たちが住み続ける、様々な時を過ごし続けるためにも、同好の士が寄せ集まって活動を続けている。

何のことは無い。私は君をこの団体に誘っているのである。

さて、天啓とはつまるところコップの水である。ポタポタと、時に勢いよく注がれた水が、本人の気付かぬうちに充ち満ちて、パッと溢れ出した瞬間に、人はその雷撃に貫かれるのである。2003 年に入寮して、毎日寮の空気を吸って、様々な活動に身を投じた私であるから、そのいなつるびは、私を撃ったのだ。

後にも述べるが、君は幸運である。何故ならば、既に何実が存在しているからである。君が天啓を受けるまでも無く。いうなれば既に先行研究は行われている。何実に参加するのもよい。何実を相対化し、君の生に活かすもよし。ともかくも確固たる目標を掲げ何実が存在している。

自分の思いを大切に、それを人に伝えて、形にしようとするのが、どれだけ骨の折れる作業か。その過程で人の思いに触れ、形を変えていく、深化されていく考えに不断のアップデートを加え続ける。それもまた、難し。只生きていだけならどちらとも必要のない作業である。しかもそれが、学生寮の建物を残すためだとしたら。

知ったふうの大人達は私たちを見て、「青春」とか言うかもしれないが、それは敗者の論理である。「そうすべし」と思ったならば、「そうなるべき」で、そのために行動を起こせない者に、何の学が成るか。君が大学で学問をする気なら分かって然るべきだ。

私は何実を生み出した。それが今に繋がる寮内の大規模補修の気運の高まりの起爆剤となった。そういった気運の昂揚はこれまでも幾度かあったが、もしかすると、これが最後かもしれない。このタイミングで、何実に関わることが出来るというのは、君の人生にとって、大いなる好機である。この意味でも君は幸運であり、すでに祝福されている。

この建築の表層を撫でるだけの莫迦に成るか、自らの耳目でその深淵を感じ取り、骨肉とするか。その選択権は今、当然のこととして君に託されている。

で、あるならば、やはり君は何実に入るのがよろしい。

私はこれからもその名の通り、退くことも逃げることもせず、この道を歩いていく所存である。君とは春に出逢うだろう。100 周年目の秋は、すぐそこで待っている。

2010/02/21 晴天

こうなったら何が何でも吉田寮を大規模補修してやる実行委員会はメンバーを募っています。入会に際して、何らの資格も技能も必要ありません。寮生である必要も当然ありません。

こうなったら何が何でも吉田寮を大規模補修してやる
実行委員会のサイト <https://sites.google.com/site/nanijitsu/>

「おめでとう！吉田寮ほぼ 100 周年祭」のサイト
<https://sites.google.com/site/yoshihobo100/>

白状文

寮猫クロ

寮生のみなさん。私クロは、ここに白状します。私がこれから、あなた達と友好関係を築き上げるために。

私はこれまで、吉田寮の名物猫として、それは長いこと皆さんに親しまれてきました。私の気品、行儀の良さは、ほかの寮猫に広く知れ渡り、私もみなさんとは、仲良くしてきたつもりですわ。

・・・でもね。

私の左目をよく観察してみなさい。そう、試しに、左目に光を当ててごらん下さい。全く、瞳孔が閉まらないことに気づくでしょう。私の、左目は義眼、しかも、映写機が埋め込まれているのですよ。さらに、私の右耳の奥をよくのぞいておくん下さい。4ミリ角程の黒いものが見えるでしょう。集音機ですわ。といっても、五年前に私の任期は切れて、これらの機械はもう動きませんがね。もう、私といたら、ここ長年、良心の呵責に苛まれて生きてきました。いえいえ、決して寮生あなた方のことを思ってではありませんの、毎日、私の面倒を見てくれている事務員さんに対してですよ。もう、ここで本当のことを打ち明けようと思うのです。

そう、私は、もともと、京大当局が仕組んだ猫なのですよ。当時はね、学生運動はもう下火になってたんだけど、やたらめったら、集中情報局の職員連中が、寮生が当局に攻め込んでくるかもしれないから、寮生の活動情報を仕入れるべきだって議論になってて。

それで映写機と集音機を仕込んだ猫を寮に仕掛けるって話が持ち上がったのよ。そしたら、私が選ばれて。最初は、寮生はとんでもないやつらなんだって、信じ込まされて、三年間みーっちり訓練させられたの。

それはそれは、“どこからか迷い込んできた猫”として、吉田寮に初めて侵入した当時は意気揚揚としていましたわ。

・・・やってやるって。

あなたがたといったら、私のもともとのかわいらしさにかまけて、なでなですすぎなんだから。ぜーんぜん、警戒感ないの。おかげで偵察活動がしやすかったわよ。

でもね、一年して、分かったのよ。あなた方、武装化して時計台を襲う様子なんかこれっぽっちもないじゃない。代わりに、あなた方ときたら、深夜に、寝ている人の部屋にストームかけにあって、口のところだけ残してガムテープでぐるぐる巻きにしたり、エタノールの力に任せて教養部のガラスを何枚も割ったり。ある子なんか、何日も砂糖だけしか口にしないで、シャワー室で倒れているのを、他の寮生に発見されたり。

がっかりしたわ。私は、肩を落として集中情報局に報告しに行くの。そしたら、局長に、なんで寮生の有用な活動情報がこれっぽちも出てこないのかって、毎回、怒鳴られっぱなし。報告日の木曜の朝は憂鬱だったわ。いっつもそんなことの繰り返し。

それで、五年前ようやく当初の任期が終わったのよ。本当は偵察猫なんだから、その後は、集中情報局の中で余生を静かに過ごさなきゃいけないんだけど、私を含めた非常勤職員の扱いの悪さに嫌気がさしてね、脱局してしまったのね。

私、これからどこに行けばいいのかしらって思ったとき、寮の風景が頭をよぎったの。気づいたら、玄関の前にいたわ。私、気付いたの。最初、何このおんぼろの建物はって思ったけど、ずーっといって、案外ここも悪くないって。なににより事務員さんの温かさに負けてしまったようだよ。あれから五年も経つね。ほんと早いわ。

まあ、これからもよろしくってことだわね。

でもね、あなた方、ここ5年ぐらい、随分まるくなってきたわね。学生なんだから、もっと活動的でいなさい。あ、私が「活動」なんか勧めちゃだめよね。うふふふ。

パンフのボリュームアップのための文章

文責：itoken

吉田寮で作成されるパンフには主に「入寮パンフ」と「寮祭パンフ」の2種類があるが、最近のパンフはそのボリュームという点において若干のさびしさが見受けられる。もともと文章を書くのが好きだった（そして寮のパンフを書くことが入寮の目的の20%ほどを占めていた）わたしは、そのままではぺらぺらになりそうなパンフのボリュームアップのためにこれまで何度か一夜漬けで原稿を書いてきた。書き始めてしまえば4ページでも8ページでもそれほど苦勞せず書くことができ、中身があるようなないようなわたしの文章はなぜかそれなりの評価を受けてきた、気がする。そして、今回も締切直前（残り24時間もない）になってパソコンを立ち上げ、ビールを飲みながらパンフの原稿を書くわけである。

わたしは中学・高校・浪人とすべて寮生活だったため、今年の4月で寮生活は10年目になる。中学・高校は中高一貫校だったが寮は別（同じ建物ではあったが）だったため、住んでいた寮としては4つめである。しかし、中学・高校・浪人時代の寮と吉田寮は天と地の差があり、とにかく管理が厳しく不自由きわまりない生活を強いられた大学入学以前の寮に比べれば、吉田寮はまさに自由の楽園、天国である。入寮2年目（4月から3年目）の今となっても吉田寮での生活には飽きないし、吉田寮に入ったことを後悔したことは一度たりともない。

わたしが吉田寮での生活を始めたのは2008年3月下旬のことであり、新入寮生が最初にあてがわれる「旧印刷室」という大部屋に入ったときには、すでに空きスペースは畳1枚分しかなかった。「ここを確保しなければ自分の未来はないのではないか」という直感が走り、まずは自分の荷物を置いて場所を確保し、部屋の隅に置かれていた布団の中から比較的シミ・汚れの少ないものを選んで今後のパートナーとして定めた（その布団は半年後に酔っぱらいのゲロにまみれて葬られることになる）。

しばらくすると別の新入寮生が家族連れで入ってきて、もはや空きスペースの残っていない薄汚い部屋を見て呆然としていた。最後のスペースを確保してしまった立場としてはなんとなく居心地が悪く、何か話しかけられたらどうすればいいのかわからなかった。しばらく気づかないふりをしたあと、そそくさと部屋を出た（なお、結局それ以後何人も新入寮生が旧印刷室に入り、最盛期の人口は11人となったが、がんばれば寝るスペースなどなんとでもなるようで、特に問題は生じなかった）。

吉田寮での生活はそんな感じでスタートしたが、当初はとまどうことも少なくなかった。部屋の中を観察し、クリアボックスの中に5巻だけ欠けた『DEATH NOTE』とヒトラ一の『わが闘争』を発見したときには「わたしはここにいて大丈夫なのだろうか」と不安になったし、3月や4月の間は朝起きたらなぜかノドが痛かったり、シャワーを浴びたら鼻血が止まらなかつたりと、健康面での被害は避けられなかった（なんてたって明らかにホコリっぽい部屋なのである。なお、これらの健康被害を総称して「旧印病」と呼ぶことがある）。しかし、どんな環境であってもしばらくすれば慣れるもので、5月にもなれば生活リズムも不安定に安定し、抵抗力もつき、たくましい寮生となっていく。

吉田寮に住むメリットは数えきれないほどあるが、大きなものとしてはやはり「安さ」と「楽しさ」があるだろう。このふたつを最大限享受できる場所が吉田寮であり、その点からいえば下宿を選ぶ人の気持ちはよくわからない。まあ、下宿には下宿なりのメリットがあるのだろうが、吉田寮に住むメリットは下宿のメリットをはるかに凌駕するのだとわたしは信じて疑わない。

吉田寮に住むにあたって支払わなければいけないお金は、年間たったの3万円である。吉田寮の案内は赤本やら京大の入学案内やらに書いてあるだろうが、そこにある「寄宿料400円」の記述を見て目を疑った人は少なくないはずだ。小学校教師の初任給が1万円とかの時代じゃないんだからそんなに安く住めるはずがないじゃないか、と思うのが普通の人間の反応かもしれない。しかしこの400円というのはまぎれもない真実であり、これまでの寮生がずっと守り抜いてきた数字なのである。吉田寮にひと月住むのにかかるお金は、寄宿料400円・水光熱費1,600円（多少変動あり）・自治会費500円の合計2,500円であり、1年間で3万円、それだけである。正式な入寮後しばらくして寮費担当の人に3万円を支払えば、あとは1年間電気もガスも水道も自由に使いながら生活ができる。「今月の家賃まだ払ってないんだよね」「ガス代しばらく払ってなかったらガスが止まって、昨日はティファールでお湯わかしてシャワー浴びた」などと言う下宿生たちの話を聞くにつけても、吉田寮に住んでいてよかったと思う。寮費以外に徴収されるお金がないので、バイト代や仕送りはかなり自分の好きなように使えるし、とりあえず「生活に困る」ということはないといっているんじゃないだろうか。

また、家具などの生活用品を寮生同士でシェアしながら使えるのも大きな魅力である。そもそも下宿生活というのは非常にムダが多いと思う。洗濯機や電子レンジなど1日に何度も使うわけではないし、冷蔵庫にしてもひとりで使うには大きすぎる気がする。そ

の点、寮ではひとりが買ったものを何人かが使ったり、ひとりで買うには高いものを何人かでカンパを出して買ったりすることができる。筆記用具・ハサミ・食器などの生活用品も寮の中を探せばだいたいなんとかなるから、新しい生活を始めるうえで購入しなければならないものは非常に少ない。事実、わたしが吉田寮での生活を始めるにあたって購入したものは枕とクリアクリーンくらいのものである。マンガや書籍もいたるところにちらばっているから勝手に読めばいい。大学に入るまでマンガをほとんど読まなかったわたしが、寮にいたおかげで知ったマンガはいくつもある。

「安さ」以外のメリットである「楽しさ」についてであるが、寮にはとにかくいろいろな人がいるから、年齢・性別・国籍の垣根を越えた人間関係を築くことができる。いつでも周りに誰かがいて話ができるし、鍋を囲んで酒を飲むこともめずらしくない。大学に入ってからさびしがりやになったわたしが、もし下宿を選んでいたら、と思うとぞっとする。だって家に帰っても誰もいないのである。誰もいない部屋の電気をつけ、ため息をつきながらテレビのスイッチを入れるような生活じゃなくて本当によかった。

学部やサークルの人たちと話していると、彼らはやはりある一定の枠内に収まった大学生活を送っているように見受けられる。海外旅行に行ったり1年間留年したりというくらいの人はいても、休学して海外を放浪したり、留年しすぎて8回生くらいになってしまったという人はほとんど見ない。これも学部やサークルなど年齢の近い人たちのコミュニティであるから仕方がないのだろうが、吉田寮ではある意味「はみだした」生き方をしている人が多い気がする。自分は同じような生き方はちょっとできないけれど、でも心のどこかで尊敬してしまうような、そんな人がたくさんいる。大学に入るまで、そして大学入学後もたくさんの人と出会ってきたけれど、こんなヤツ見たことないぜ、という人がゴロゴロいる。すごい世界だ。

現在の吉田寮は建て替え問題をめぐって大学側と議論がなされている最中であり、今後5年10年でその状況がどう変わるかはまったくわからない。しかし、築100年弱（日本最古）の、しかもいまだに自治権を守り抜いている学生寮である吉田寮で生活していることをわたしは誇りに思うし、吉田寮での4年間（で卒業できればの話だが）はわたしにとって一生忘れられない思い出になるだろう。夏暑く（1回生の夏は特に暑く、パソコンの前にいると熱気で息ができなくなりそうだった）冬寒い（デフォルトで5℃、暖房つけて10℃いかないときもある）という最悪の環境。料理をするにもトイレに行くにも廊下を行ったり来たりしなければいけないという不自由さ。試験直前にもかかわらず存在する総会（わたしは出席率が低い。そろそろ出るようにしよう）。快適な下宿生活から考えれば地獄ともいえるこれらのデメリットを補ってあまりあるくらい、吉田寮

は楽しい。

このパンフを読んで吉田寮に興味を持ったなら、ぜひとも入寮を検討してほしい。そして、吉田寮の新たなメンバーになってくれたときには、わたしたちは全力であなたを歓迎するだろう。

俺は年を取る事は怖
くない。

楽しみで仕方ない。

顔に刻まれるしわも、

これまでに感じてき

た感情も、思い出も、

傷跡も、全て愛す

る！

独立法人化以後の大学は、PRに躍起となっているようです。そのようなPRの一環として、Kyoto UniversityをMANGAで全世界に紹介する冊子^{1,2,3,4)}があります。その中に、吉田寮を見つけました。そこで、うれしがる私は紹介することにしました(注1)。マンガの最後には、「この物語はフィクションです」とあります。ところが、私には、この1コマ目と5コマ目(第1図)は、あながちフィクションではないように思われます。

私は、これまでに、寮生の諸氏から大きな教育的な効果を受けました。具体的には、それぞれの寮生の興味のある事柄やら寮生の専門の勉強やらを教えてもらったり、また、ときには、ともに考えたりもしました。たとえば、私は、大学院博士課程に在籍しているのですが、先日、生態学の論文執筆のために数学の行列に関する論文を理解する必要がありました。私は、数学とかさっぱりだったので理学部の人に、その論文を解説してもらいました(注2,3)。いまはやりの「学際〇〇プロジェクト」というずっと前から、寮においては、日常的に学際的なやり取りがあります。

また、勉強だけではありません。昔、教育学部の講義で「遊びをするには、3つの間(時間・空間・仲間)が必要です」と、聞きました。寮には、それらの全てがあります。だから、楽しいのはあたりまえです。私は、寮生と共に、さんざん呑んだり食べたり遊んだりしてきました。

また、吉田寮には、留学生も多くいます。そもそも、この留学生/非留学生という区分自体、違和感があるほど、なじんでしまっている人もいます。あまりになじんでいるがゆえに、この冊子の中のいくつかの文章が、留学生の手によるものがあるとは思えない受験生もいることと思います。私は、留学生から彼ら/彼女らの故郷や母語のことを教わるとともに、日本のことや日本語を教えたりしました。いまはやりの「国際交流〇〇プロジェクト」という10年も前から、寮においては、日常的に国際的なやり取りがあります(注4)。入寮当初、私は相部屋に戸惑いましたが(そして、入寮を検討されている読者にとってこの足を踏む要因のひとつかもしれない)、振り返ると相部屋にはこのようなすばらしい効果があったといえます。

では、なぜ吉田寮の仕方は、その効果にもかかわらず、評価が低いのでしょうか？私が考えるに、寮生は、寮でごろごろしたり、遊んだりしている方が楽しいので、おそらく、吉田寮のやりかたの妥当性をわざわざ主張しないのだらうと思います。しかし、私は、もう少し高く評価されてもよいのではないかな、と思います。

大学当局は、全世界に向けた広報資料にわざわざ吉田寮を書き記すくらいだから、寮の教育的効果を認めてくれているのであろうと思います。ところが、その一方で、当局代表の先生の中には、新棟(注5)建設に関する折衝の場において、「寮生がいうところの、寮の大事な点は、ひとことでいうとなんだね？」という、意地の悪い問いをし、寮生を困らせる先生もいます(〇_〇)。なぜ、意地の悪い問いかという、この問いには、一つには、寮生にはそれだけ与えて残りは奪ってしまおう!!という、意図があるように思われることが挙げられます。そして、もう一つには、寮の大事な点やよさをひとことで述べるのは困難だからです。寮の大事な点やよさは、たったひとこと、あるいは、A4一枚程度で、書くには、到底おさまりません(〇_〇)。上述の私の経験も長い年月の、ほんの一例に過ぎません。

まあ、いいことばかりでもありませんが、足したら絶対にプラスです。

受験生の皆さん!!

吉田寮へ入寮してみてください。遊びにくるだけでもいいです。百聞は一見にしかずです。

吉田寮は、年中開いています (〇〇)。 (注6,7)



第1図 散歩中に雑談する教官と学生 1)

脚注

注 1) 筆者は、京都大学は当該 MANGA が吉田寮の良さを示す資料として入寮パンフに書かれたからといって、さっそく削除するような狭量な大学ではないと思っています。

注 2) 彼は、水割りに凝っているので、お礼にウイスキー(1920ml)と炭酸水(10本)を進呈しました。

注 3) 過去には『吉田寮体育会数学部』なる数学の勉強会があって、某大手予備校に対抗して、京大入試解答速報を作成していました。また、試験期間前には、公共スペースにおいて勉強を教える光景が見られます。

注 4) 吉田寮の現状が完璧だというつもりはありません。しかし、当局がこれまでに建設した留学生宿舍の伝え聞く現状よりも、よほど、良好なようです。

注 5) 新棟とは、今後寮に近接して建設されるかもしれない新たな建物のことです。

注 6) 扉が閉まらないわけではありませんが、いつも開け放たれています。

注 7) 入寮選考期間は春期と秋期の年 2 回のみです。ので、ご注意ください。

参考文献

- 1) MANGA Kyoto University 「6. 散歩日和」
<http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/66065/4/165-194.pdf>
- 2) MANGA Kyoto University (Chinese ver.) “6. 散歩日和”
<http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/91242/2/165-194.pdf>
- 3) MANGA Kyoto University (English ver.) “6. A Nice Day for a Walk”
<http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/91241/2/165-194.pdf>
- 4) MANGA Kyoto University (Korean ver.) “6. 산책하기 좋은 날.”
<http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/91243/2/165-194.pdf>

吉田寮に三年住んで

僕はこの春博士号（素粒子論専攻）を修得し京都大学を卒業する。僕が入学したのは2000年、学部課程、修士課程、博士課程を合わせてもう十年間京都大学にいたことになる。何でもいいから受験生のために何か書いてと言われたので、適当に書き綴ることにする。

吉田寮に住み始めて三年になる。吉田寮に移るまでの経緯を書いておこう。学部三年までは自宅から通学し、その後、修士一年まで友人と千本丸太町でシェアハウスをし、そこが解散してから四十日間研究室に住み、博士課程一回が終わるまで別の友人達と下鴨で風呂なし池あり茶室ありの古民家でシェアハウスをした。その後、人生最後の吉田寮に住む機会ということで、ここに引っ越した。ちなみに寮を出た後は、東京で就職をし、そこでまたシェアハウスをする。

僕はこれからも一人暮らしはしないだろうと思う。一人暮らしをするメリットを感じないからである。一人暮らしは非効率的（どうして一人一つの電子レンジ、洗濯機、トイレが必要になるのだろうか？共有すれば済むものなのに）だし、世界が広がらないし、一人でご飯を作って食べるよりみんなで作って食べる方がおいしいというのがその理由である。

僕にとって吉田寮に住むメリットは次の三点だった。

1. 美しい建築に住む喜びを味わえる。
2. 家にいながら世界が広げれる。
3. 豊かで文化的生活を享受出来る。

1は見れば分かる。これほど美しい建築に住める機会など人生を通じて二度とないだろう。朝、庭と廊下の美しさに感動して立ちつくすこともある。

2に関して説明すると、普段知り合う機会の少ない他学部、他研究科の人たちと知り合うことが出来、色々な面白い話を聞ける。さらには寮という空間に魅せられた寮外生、宿泊客の人たちとも友人になることが出来る。普通に大学生活を送っても作れる友人はクラスに数名＋ゼミ＋（バイト、サークル）程度であるのに比べ、この差は大きい。後々の人生にまで影響を与えるだろう。

3に関して言えば、寮は「食堂」という名のライブハウス、劇場付きである。寮のイベントだけでなく、外部団体にも開かれており、頻繁に劇やライブが徒歩0

分無料で見るることができる。食堂の天井裏にはこたつと大スクリーンが設置されていて、僕は借りてきた映画をよくここで見ている。日々の飲み会、鍋会なども楽しい。誰かが書くと思うので割愛するが、年に一度寮祭がある、その他ユニークなイベントがたくさんあり、企画も出来る。

寮に入ると勉強がおろそかになるという心配を抱いている人もいるかもしれない。しかし、それは本人次第であると思える。遊び続けることも可能であるが、他学部生や院生から刺激を受けたり、詳しい人から教えてもらうことも可能である。

最後に補修や立て替えの問題に対し、一言残しておきたい。最近読んでいる「マシキョウ経済学」に次のような文があった。

「修復された歴史的建造物は正の外部性（ある人の行動が周囲の厚生に影響を与えること）をもたらす。建造物の周囲を徒歩や乗り物で巡る人たちが、建造物の美しさやその醸し出す歴史的雰囲気を楽しめるからである。建物の所有者は修復による便益のすべてを手に入れるわけではないので、古い建造物を早めに処分してしまう。この問題に対して地方自治体は、歴史的建造物の破壊を規制したり、所有者による修復に税金面で優遇措置を講じたりすることで対応している。」

これは大同小異で吉田寮のことだなと思った。寮生（快適で近代的な建物に住みたいと思う人もいるだろう）や大学（吉田寮を補修する経済的なメリットは少ないかもしれない）の便益の立場をあえて超えて発言すると、このような美しい建物を立て替えしてしまうのは文化や芸術、歴史を軽視した行動であると僕は考える。

吉田寮の写真：

<http://bit.ly/cuCL1B>

<http://bit.ly/annwNK>

文：平田朋義

メール：tomo3141592653@gmail.com（メールの際は、☆を@に変えて下さい。）

HP：<http://bit.ly/dmE5Fv>